

学	校	を
支	え	る
地	域	の

力 chikara

文部科学省
生涯学習政策局社会教育課

はじめに

新居浜市は人口12万6000人、愛媛県東部に位置する工業都市です。1691年に別子銅山が開坑されて以来、企業城下町として発展し、「平成の大合併」で、別子銅山ゆかりの別子山村と合併しました。



飼育小屋をリニューアル

学校と地域がともに喜ぶ新しい関係へ

学校支援は地域力再生の起爆剤

愛媛県新居浜市教育委員会

本市には18の小学校、12の中学校があります。学校支援地域本部事業には、4つの小学校区と5つの中学校区が名乗りをあげ、その校区内の16の小学校が取り組んでいます。

本市の取組の特色

現在、各地域本部での活動内容は、

地域コーディネーターの調整により実施されており、大きく次の3つに類型化されます。

類型① 場を整える活動

樹木の伐採や庭の管理、花壇の整備、飼育小屋の改造、図書館整備や児童用いすの雑音防止作業など

類型② 学習を支える活動

英語活動のアシスタント、総合的な学習の支援、稲作や伝統行事体験、部活動の指導、職場体験学習の受入先の募集など

類型③ 安全・安心を支える活動

通学時の見守り活動、遠足など校外活動への協力など

これらについては、学校側が希望することと地域がやってよかったと感じられることをつなげることが重要です。それなしには一方的なお手伝い、場合によってはお節介になってしまうこともあるようです。

聞こえてきた地域の声

地域住民が学校に入っていく機会が増え、今まで見えていなかった学校の様子が見えてきました。学校に対して熱い思いを持つ人が地域に眠っていることも感じられます。興味深いエピソードをいくつか紹介します。

(1) いくつか学校に恩返しをしたかった
ある中学校が荒れていました。そこで、みんなの力で学校の乱れを直そうということになりました。当初は美化

活動として、簡単な草刈りを想定していたのですが、いざ始めてみると高所作業車、バックカー車、チェーンソー、塗装作業などさまざまな分野のボランティアが結集した本格的な作業になりました。半日で学校は見違えるように美しくなり、その後、生徒たちは積極的に清掃活動に取り組むようになりました。

その際の協力者の言葉が印象的でした。彼はその学校の卒業生で現在は会社経営者ですが、中学生の時に、学校にたくさん迷惑をかけたそうです。

「これまで、学校に恩返しをしたかった。思っていたが、敷居が高かった。今回の作業で、念願がかなった。本当にありがとう」。この言葉は地域の人の心情を代弁しています。学校は、やはり心のふるさとなのです。その証拠に作業のたびに新しい協力の輪が広がっています。

(2) 先生の苦勞がよくわかったよ

ある小学校では、校長の呼びかけに応じ遠足に随行しました。以前から放課後子ども教室で子どもたちとの関係はできていましたが、学校での姿をつぶさに見るのは初めてです。低学年児童の予想できない行動にはただただ当然、先生の汗だくの様子を見て「改め

て学校の先生の大変さを知りました。私にできることはいつでも手助けします」とみんなが口をそろえ語っていました。子どもと一緒に弁当を食べ、歩きながら学校や家庭の話聞き、和やかな気分を味わいました。子どものありのままの姿を知ること、それが学



作業車も来て校庭の樹木を剪定



学校内の交流スペースで合同給食

校支援事業の基本だと感じています。(3) 対一の関係が必要な子どもたちへ 学校は集団活動の場です。先生は一

対多の関係の中で、一人一人の子どもたちに十分な対応を図ることは困難な状況です。その点、地域の人であれば一対一の関係で子どもとかわかることも可能です。算数の分からない子には分かるまで教えることができ、悩み事をじっくり聞くこともできます。ある中学校で花植えボランティア活動を行った際に、一部の生徒たちについて、先生から「迷惑をかけると思います……」と言われてました。しかし地域の人が誘い、一緒にやろうと促すと、最初は拒絶していましたが、徐々に打ち明け、最後まで一所懸命に花植えや除草に取り組んでくれたのです。地域の人は、終わりのあいさつでその子らを

誉めました。地域の一人として認め、子どもを活かすことができれば、子どもたちも成長するはずですよ。

学校支援で、地域を元気にしよう

学校支援地域本部事業にかかわって一番感じるのは、小さなことでもいいから具体的な支援活動を継続すること、互いの要望を出し合ってきちんと縁結びをすることの大切さでした。地域コーディネーターが仲人役を果たし、協議を重ねる中で学校側が望むことを引き出し、地域で実現の可否を見極めることができるようになりました。学校を思う情熱や志によって、新たな地域づくりの関係性が生まれています。先生と地域リーダーが子どものためという思いで意見交換し、問題解決に向けて協働する。新たな人材も学校支援を通じて発掘される、そのことが地域に活力をもたらしています。それぞれの支援活動は小さな一歩かもしれないけれど、しかし、それらが積み重なれば、5年10年先には大きな歩みを刻むことでしょう。学校支援活動が地域社会に一石を投じ、その波紋が広がって、自分のできる場面でまちづくりに関与することは当たり前である、そんな地域を目指していきたいものです。

(社会教育課長 関 福生)